

国泰寺と愛宕池

白神社のすぐ外、平和大通りの歩道には、干からびた小さな池を囲むように木が木立になっているところがあります。これは愛宕池で、かつては広大な敷地を誇った国泰寺の庭園の一部でした。国泰寺は仏教の寺で、白神社に隣接する信仰の場でした。江戸時代（1603–1867）、浅野家が広島を統治していた頃、国泰寺は広島で最も影響力のある寺でした。浅野家の人物の埋葬を担当していたのです。

白神社と同じように、国泰寺が建てられた場所も当時の広島の沿岸近くで、愛宕池は海に流れる川に面していました。愛宕池の周囲は、原爆投下時でも、すでに本土と繋がった陸地にはなっていますが、まだ少しの木の茂みが残っていました。国泰寺は原爆投下で完全に破壊されましたが、愛宕池を取り囲む木の多くは原爆の爆発を生き延びました。それでも一部にはまだ原爆投下の跡が見られます。また、燃えたものの根が生き残って新たに芽を出したものもあります。1978 年、国泰寺は西の己斐地区に再建されましたが、愛宕池の遺構は広島市の芯の強さの象徴として当時の場所に保存されました。